

“今は昔の昆虫採集”

教育委員会委員

橋本 和明

残暑厳しい毎日が続いていますが、夏休みはどのように過ごされたでしょうか。かき氷の食べ過ぎでお腹をこわしたり、クーラーをかけ過ぎて寝冷えするなどのことはなかったでしょうか。

もうすぐ秋が来るのか、セミの声もなんとなく物悲しく感じたりします。そんな時、ふと昔の子ども時代を思い出しました。小学生の頃は、夏休みと言えば帽子をかぶり、虫かごを肩からたすき掛けにし、手にはアミを持ってセミやカブトムシなどを採りに行きました。今は相当に光景が変わってしまいました。最近特にそれが顕著に思われます。外に出るとあちこちでスマートフォンを片手になにやら必死で採集をしている人がいます。もう言わなくてもおわかりかもしれませんが、『ポケモン GO』をしているのです。いろんなキャラクターをゲットしたり育てたりと、まさに現代の昆虫採集かもしれませんね。しかも昔のゲームとは違い、スマートフォン上に映る現実の場面にキャラクターがいかにも存在しているかのように見えるのですから、リアリティもあります。かつてのセミ採りでは、捕まえたセミを虫かごに移す際にセミの鳴き声や羽や体を震わせる振動が手に伝わってきたのですが、今ではスマートフォンのバイブレーションがその役割をしているかのようです。もし、子どもたちに「どちらがリアリティを感じるか?」と尋ねたら、実際のセミよりもポケモン GO と答えるかもしれません。

ご存じのように、ポケモン GO の流行は世界的であり、それに夢中になって事故も続出しています。子ども一人で知らないところに行かないこと、川や海には大人と一緒になければ近寄らないこと、日が暮れるまでには家に帰ること、等は以前の遊びでも共通して言われてきたことです。特に、ポケモン GO では大人が熱中することが多いようです。だからこそ、子どもたちの手本となるように振る舞いたいものです。